

## ◆ 今週のコメント

- レジオネラ症の報告が、1例あります。本年の累積報告数は3例で、病型は、すべて肺炎型、年齢は、60歳代が2例及び90歳代が1例です。推定感染地域は、国内が2例、国外(タイ)が1例で、国内1例の推定感染経路は水系感染、他の2例(国内1例、国外1例)の推定感染経路は不明です。
- インフルエンザの定点当たり報告数は、4.88(327例)で、2週連続して減少しています。近畿6府県では、和歌山県で先週から増加しましたが、5府県で2週連続して減少しています。
- 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.33(13例)で、平成22年第33週(8月16日～22日)以降、過去5年平均値を大きく上回る状態で推移しています。本年は、4～5年の周期性がみられる本疾患の流行年に当たりますので、今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.08(363例)で、本年で最も多くなっており、京都市の過去5年平均値を上回る状況が、第1週以降、続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 3例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	4.88	327
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.08	363
	② 水痘	0.88	35
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	29
	④ 突発性発しん	0.40	16
	⑤ 伝染性紅斑	0.33	13
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

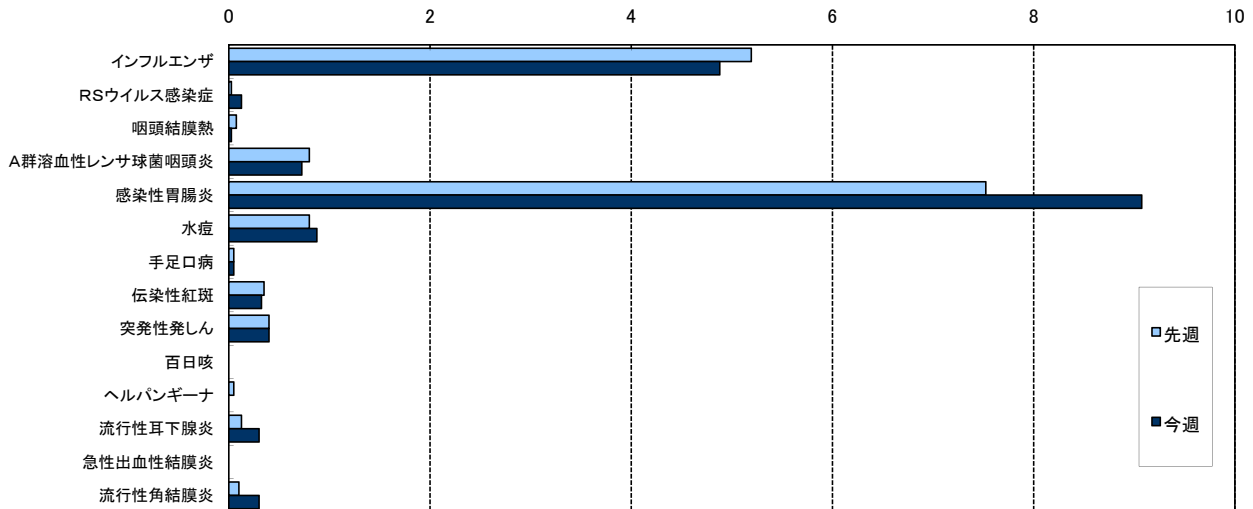
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注)京都市のデータは、平成23年4月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

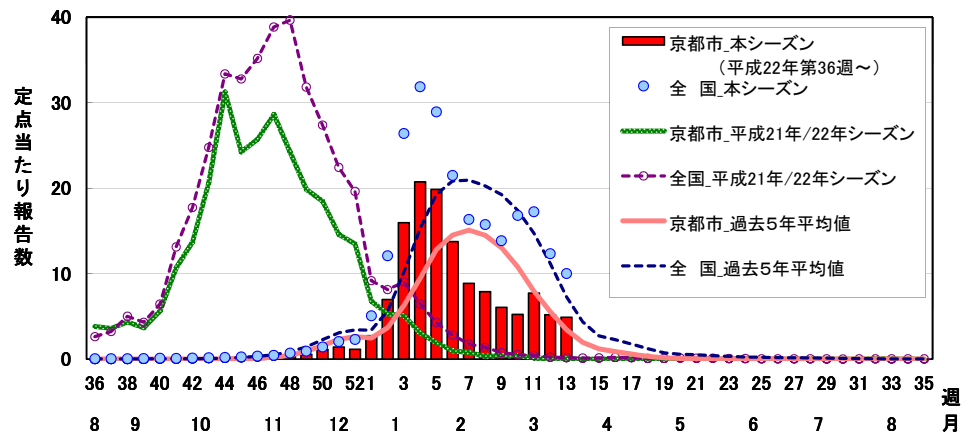
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第13週)と先週(第12週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

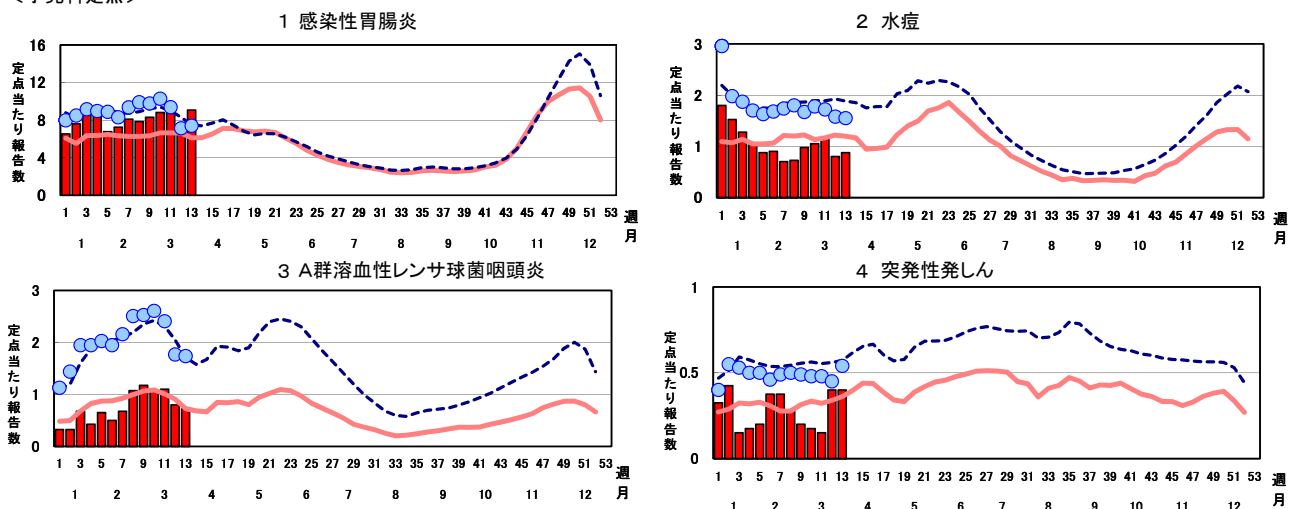
週	報告数(例)
第9週	406
第10週	350
第11週	517
第12週	348
第13週	327
累積報告数 (第36週以降)	8,807



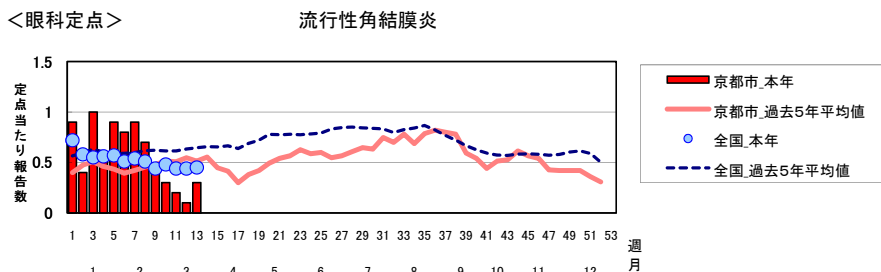
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第13週(3月28日～4月3日)トピックス: <感染性胃腸炎>

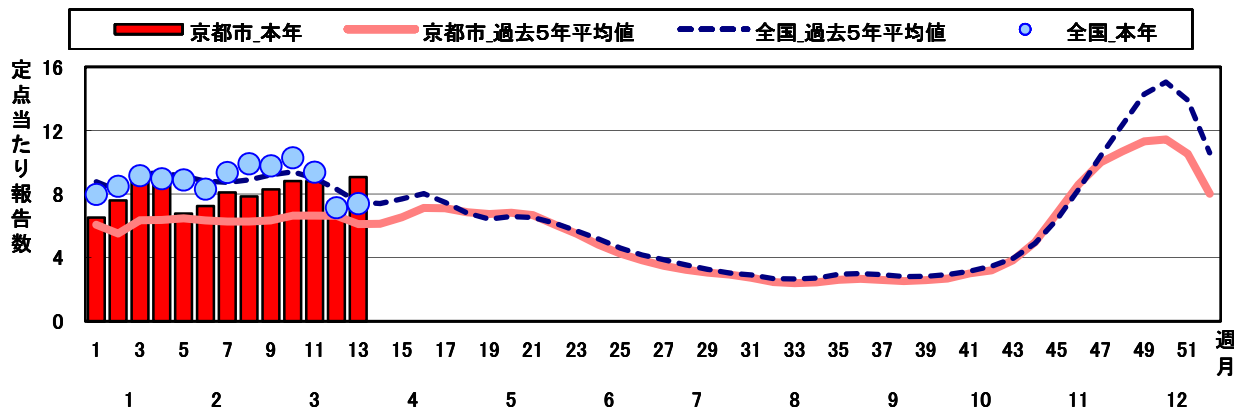
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.08(363例)で、本年度で最も多くなっており、京都市の過去5年平均値を上回る状況が、第1週以降、続いています。

年齢階級別割合では、5ヶ月以下、1歳、2歳の比率が増加しており、今週は4歳以下が、報告全体の64.2%を占めています。

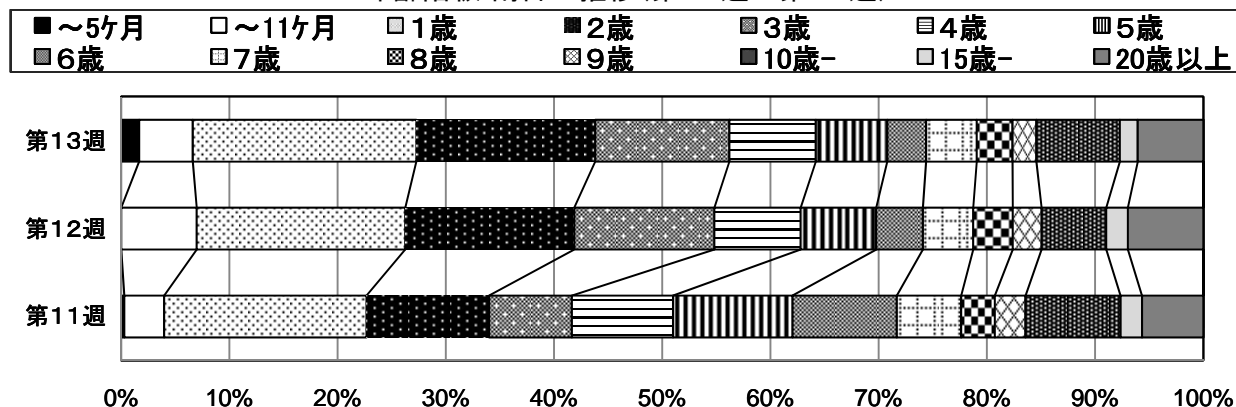
行政区別の定点当たり報告数の推移では、北区、中京区、東山区、右京区、西京区で前週から増加し、北区と下京区の2区では、過去5年平均値を下回る報告数となっています。

病原体定点から採取された感染性胃腸炎検体において、京都市衛生環境研究所では、ロタウイルスの検出が増加しています。

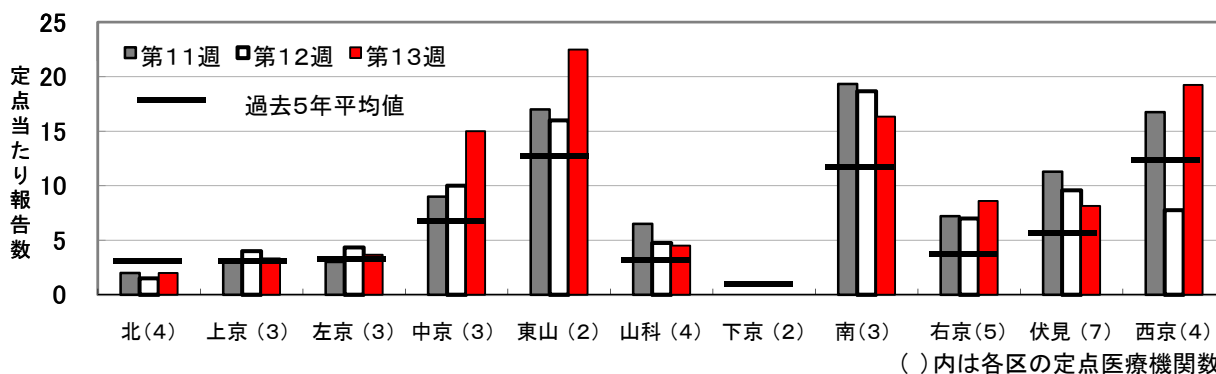
定点当たり報告数の推移(平成23年)



年齢階級 割合の推移(第11週～第13週)



行政区別 定点当たり報告数の推移(第11週～第13週)



感染性胃腸炎検体からのウイルス検出数(衛生環境研究所)

	1月(n=18)	2月(n=22)	3月(n=18)
ノロウイルス	6	5	3
ロタウイルス	1	3	4

(nは感染性胃腸炎検体数  
3月は29日受付分まで)